



ミュンヘン便り ～アドベント(Advent) ドイツの師走～

「アドベント」という言葉に聞き覚えがある方もいらっしゃるでしょう。アドベントは、クリスマス前の3週間強の期間で、11月27日以降の日曜日から始まり、12月24日に終わります。今年2013年のアドベントは12月1日(日)から始まります。この時期をアドベントツァイト(Adventszeit)とも呼びます。クリスマスマーケットがたつのもアドベントの期間、すなわちアドベントの初日の日曜日から12月24日のお昼までです。最近では、それよりも早く始めるクリスマスマーケットもあるようですが。

アドベントに先立ち、4つのろうそく一組を準備します。最初の日曜日の夜に1つ灯し、次の日曜日の夜に1つ目に加えて2つ目を灯し、三日目の日曜日にはさらに3つ目を、最後の日曜日の夜にさらに4つ目のろうそくに点灯します。つまり、4つのろうそく全てに火がつくのは最後の日曜日の夜です。最初のろうそくが一番たくさん使われ、2つ目、3つ目に連れて使用時間が少なくなるので、4つ並んでいるろうそくの長さも1番目から4番目まで順に違います。日が一段と短くなり、暗くなるのも早くなるアドベントの期間、日曜日ごとに1つずつろうそくをともしながらクリスマスを待ちます。「もう幾つ寝るとお正月・・・」と歌う気持ちと似ていますね。

4つのろうそくを直線状に並べた燭台もありますが、典型的なのは環状に形作った木の枝に4つのろうそくを立てたアドベントクラッツ。本当の木製の枝を環状に形作り、そこに赤や金の木の実、星などで飾りをつけ、大きな4つの赤いろうそくを立てます。すでに飾

り付けられた完成版アドベントクラッツも写真のように店頭に並びますが、飾りのない素のクラッツ、つまり



木の枝を環状にしたものを買って、自分で飾りをつけてもいいのです。このような素のクラッツは、アドベントが始まる前の11月ごろ、つまり今の時期に市場などで、いとも無造作にバームクーヘンのように積み重ねられて売られています。もみの枝、月桂樹の枝、柊など、素材も色々、大きさもまちまちです。小さいものだと500円くらいからあります。木の枝から自分でクラッツを作るのが最も伝統的で、ドイツの子どもたちは家庭や学校などで必ずクラッツづくりを経験しています。このアドベントクラッツは、家庭だけでなく、事務所でも飾ったりします。

アドベントの期間は、クリスマスマーケットがたつ楽しい期間でもあります。街中の大小の広場のそれぞれに、大小様々なクリスマスマーケットがたち、それぞれに特色を出します。芸術家の手作り作品を扱う店が集まる場所もあれば、観光客向けの品々を扱うところ、比較的日用生活用品が多く集まる場所、子供用の品が多いところなどなど。特に何の目的がなくても、ぶらぶらとクリスマスマーケットを見て回るのはこの時期の大きな楽しみです。体が冷えてきたら、グリューワインを一杯。煮立てた赤ワインにレモンの輪切り、オレンジの皮、シナモン、丁子、カルダモンなどの香辛料と砂糖を入れた、熱くて

スパイシーな飲み物です。この時期外出したら、何も買わなくてもグリューワインだけは飲むだろうと思うくらい、アドベントの期間に欠かせないものです。同僚と仕事帰りに一杯、週末の散歩がてら一杯、買い物かてら一杯、などなど。何ととってもそこら中の広場で大小様々なクリスマスマーケットが展開されていますので、グリューワインを飲む場所には事欠かないのです。

ミュンヘンの市庁舎の前のマリエン広場にも、クリスマスマーケットが毎年たちます。ここに欠かせないもう一つの大事な物、みんなが待ちにしているもの、それは大きなクリスマスツリーです。毎年アドベントの2週間ほど前に、大きな本当のもみの木がどこからか運ばれて市庁舎の前に立てられます。左右均等で二等辺三角形の格好いい木が来る年もあれば、いびつでちょっと不格好な木が来る年もあります。高さは10階建てのビルくらい。ツリーの足元をしっかりと固定し、ツリーの全身に小さな電灯を取り付け、点灯することなくクリスマスマーケットの初日を待ちます。待つこと2週間弱。電灯が最初に点灯し、ツリーの全身が輝くのは、アドベントの初日の日曜日の夜です。写真は去年のアドベントの初日を明日に控えた土曜日のマリエン広場です。クリスマスツリーはすべての準備を終えて点灯を待つばかり。広場ではクリスマスマーケットに出店している人たちが、最後の準備にあわただしく追われています。人々は、明日から始まるアドベントを、そしてクリスマスマーケットを楽しみにしながら、散歩がてら今年のツリーの形を見に来たり、クリスマスの支度を買いに来たりしています。

アドベントの終わりは12月24日。ドイツのク



リスマスにおける最も大切な聖なる日です。クリスマスツリーに飾りをつけるのは伝統的には12月24日の午後。アドベントはその聖なる日へのカウントダウンであり、日本の師走のような慌ただしさ。そして24日のお昼をもって町は一斉に静かになります。24日の午後はさながら、除夜の鐘に耳を澄ませ、新年を待つ大晦日の夜のような、静かで厳かな雰囲気です。事務所も会社も営業するのは全て24日のお昼まで。午後は皆家に帰り、家族と共に教会に行き、家族で夕食を囲みます。日本の元旦のように、家族とだけで過ごす日です。ドイツでは12月25、26日は祝日です。欧州特許庁も閉庁します。ここに期限日が当たってれば、自動的に12月27日以降に延長になります。最も聖なる24日はなぜか祝日ではないのですが、その日が期限日であれば、代理人は必ず前もって処理するはず。24日はすでに誰も仕事に集中できないからです。

さあ、日本では師走が、ドイツではアドベントが、目前にせまってきました。2013年もあとわずか。すべき仕事を滞りなく終わらせて爽やかに新年を迎えられますように。ひと足早くGuten Rutch ins neue Jahr! (良いお年を。直訳は「新年に向かってよい滑り込みを」)。来年もこの記事でお会いしましょう。

筆者紹介

稲積 朋子 (いなづみ ともこ)

1994年弁理士試験合格。2012年ヨーロッパ弁理士試験合格。現在、新樹グローバル・アイピー特許業務法人及びGIP Europe Corp.所属。

1997年、新樹グローバル・アイピー特許業務法人入所し、主に国内外の出願及び権利化業務を担当。2007年11月より、ミュンヘンの現地提携事務所に駐在。2009年1月、GIP Europe (GIPグループミュンヘンオフィス) 設立。日本企業からのヨーロッパ出願・中間処理・異議申立・侵害品ウォッチングや、ヨーロッパ企業からの日本出願・中間処理業務を行う。

趣味は、山登り、ぼーっとすること、寝ること、健康づくりに励むこと。